

新たな津波浸水想定に基づいた 津波防災対策の見直し 感染症を意識しての備品準備

国・県のガイドライン等に沿った取組を進めている

八戸市では、令和3年5月に青森県が公表した新たな津波浸水想定に基づき、4年4月に津波ハザードマップを、同年11月に津波避難計画をそれぞれ改定しました。県の新たな津波浸水想定は、2年4月に内閣府が公表した日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデルを踏まえたもので、当市においては津波浸水想定面積が約1.4倍に広がるとともに、第1波到達予想時間が約12分も早まるという大変衝撃的なものでありました。

これまでの津波被害想定と比べて避難者数の増加が予想される中、昨今の新型コロナウイルス感染症拡大を受けて感染リスクを考慮し、消毒液など感染症対策関連の備蓄を増やしました。また、国・県のガイドライン等を参考に、4年3月に避難所運営マニュアルを改定し、新型コロナウイルス等感染症対策の追加、避難所における良好な生活環境の確保に向けた内容の追加・見直しを行いました。受付場所の配置やパーソナルスペースの確保などの問題から避難所が足りなくなることも想定されるため、分散避難を推奨していきたいのですが、分散避難の際は、個人レベルでの備蓄がより一層重要となってきますので、そういったことの周知徹底が課題であると思っています。

新型コロナウイルス感染症の広がりを受けて 避難所のトイレの環境を整える

今までは段ボールトイレを中心に備蓄をしていましたが、感染リスクを考慮した場合、トイレまでの動線の分離や、排泄物や嘔吐物からの感染を防ぐことができるようなトイレ機能も必要だと思っていました。「ラップポン・トレッカーWT-4GV」のことは前から知っていましたが、災害時に必要な備蓄物資には、定期的な入れ替えが必要な食料・飲料水や生活必需品のほか、毛布やカイロなどの寒さ対策のものもあるため、トイレ対策だけに予算を割くことはできず、一度に必要な数を備えることは難しいという問題がありました。

この度、コロナ対策の補助金により、まとまった数を備蓄することができましたので、従来備蓄していた段ボールトイレと組み合わせながら、それぞれのトイレの特徴を生かして安心して避難生活を送れるよう活用をしていきたいと思っています。

Interview



八戸市 市民防災部
防災危機管理課
地域防災グループ
主査
宮川 武志 様



市役所所在地 〒031-8686 青森県八戸市内丸一丁目1番1号
人 口 221,589人(令和4年10月31日現在)
地 勢 なだらかな台地に囲まれた平野が太平洋に向かって広がり、その平野を三分する形で馬淵川、新井田川の2本の川が流れています。